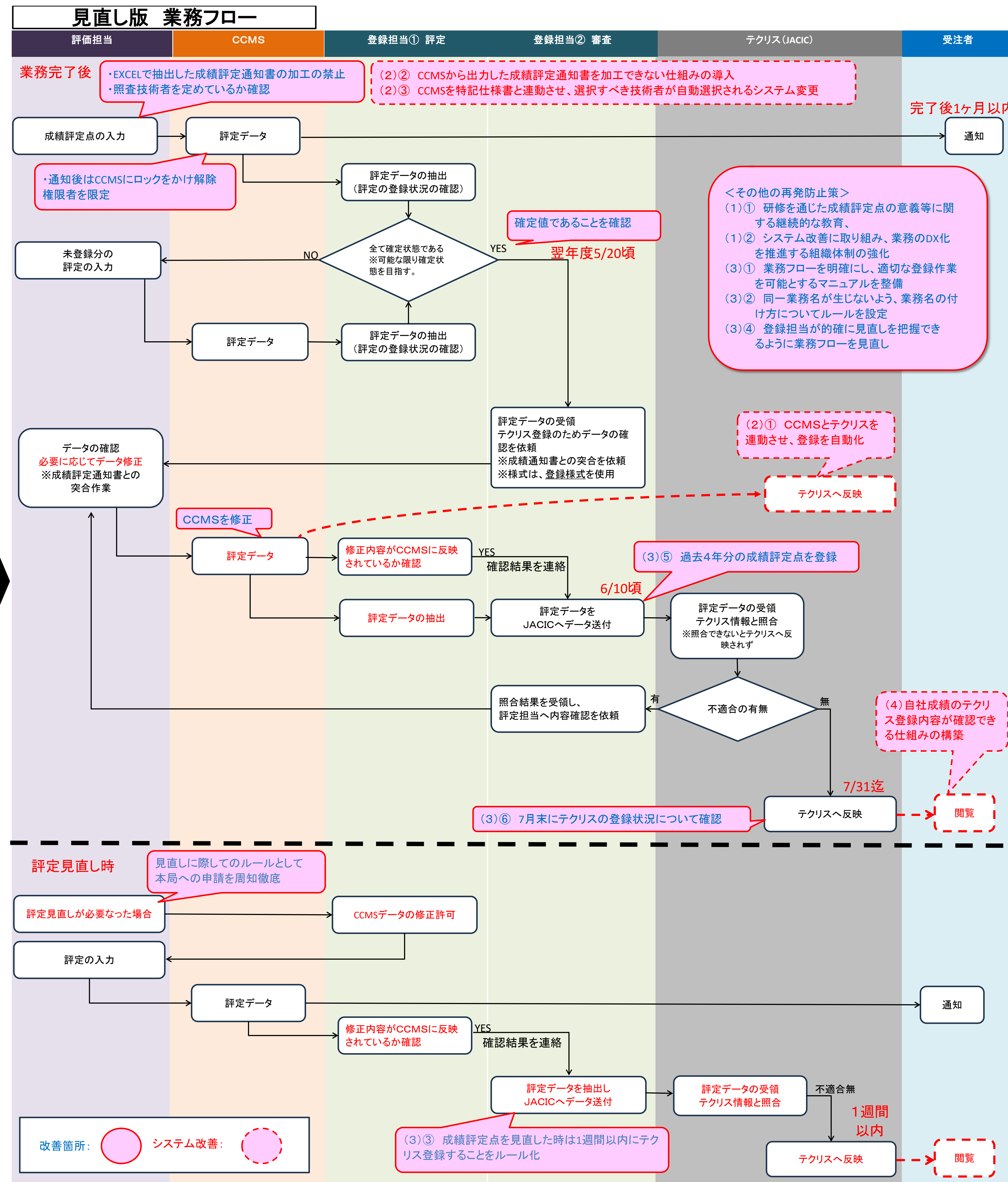
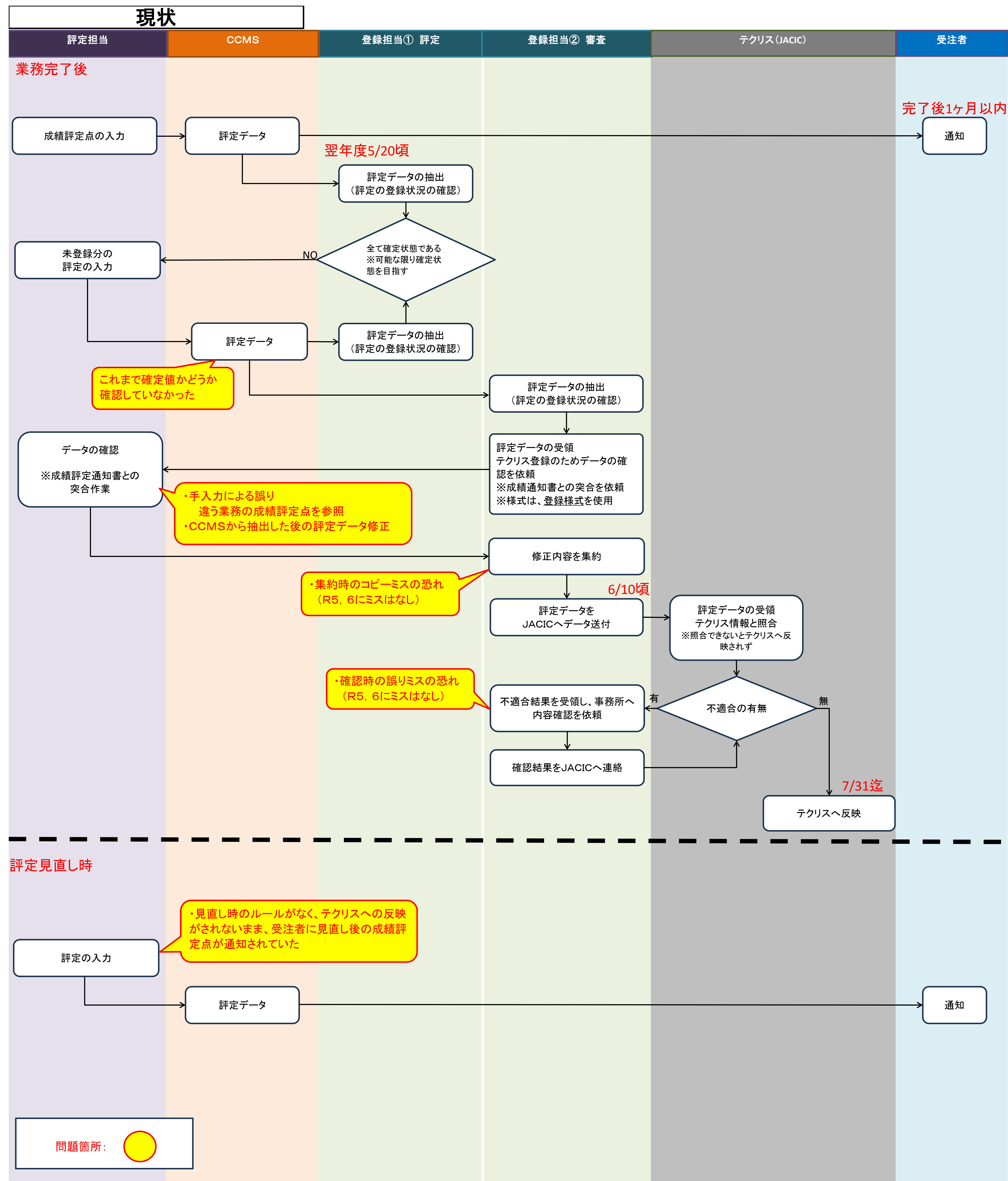




【再発防止策の方向性（第1回有識者会議）】

- 人為的ミスを防ぐシステム改善とマニュアルの必要性
- 業務全体を最適化する合理的なシステムの追求
- システム改善までの暫定的な措置の必要性
- 成績評定の重要性に関する職員意識の欠如への対応
- 参加表明者が自社成績の登録内容が確認できる仕組み

再発防止策

(1)人材育成、体制強化

①研修を通じた成績評定点の意義等に関する継続的な教育、②システム改善に取り組み、業務のDX化を推進する組織体制の強化

(2)システム改善

【人間による操作行為を最小化するシステム改善】

①CCMSとテクリスを連動させ、CCMSの登録がそのまま自動的にテクリスに反映するようにシステムを改善

【運用を誤らない物理的な措置の導入】

②CCMSから出力した成績評定通知書自体を加工できない仕組みを導入

【システム対応の追求】

③CCMSを特記仕様書と連動させ、対象技術者の種類が自動選択されるようシステムを変更

(4)企業側が確認できる仕組み

企業側が自社成績のテクリス登録内容を確認できるようJACICに改善を依頼

(3)当面の措置

【業務フローの再確認とマニュアルの整備】

①業務フローの見直しを行い、適切な登録作業を可能とするマニュアルを整備

【同一業務名とならない措置の導入】

②同一業務名が生じないよう、業務名の付け方についてルールを設定

【速やかに再登録をする仕組みの構築】

③成績評定点を見直した時は、速やかにテクリス登録することをルール化

④登録担当が的確に見直しを把握できるように業務フローを見直し

【テクリス登録値を再確認する仕組みの導入】

⑤毎年6月に過去4年分の成績評定点をJACICに登録することに変更

⑥毎年7月末にテクリスの成績評定点の登録状況について、確認